



拳法会ニュース

2021年3月吉日
全日本拳法会本部
053-439-0909



2021年新型コロナウイルス禍における 世界の拳法会Familyたち！ 逃げては、何も生まれない！

正体不明の新型コロナウイルス禍で「自粛」したり「稽古中止」したりしてきました。その結果、「体調不良」「会員の減少」「技術の低下」など様々な問題が生まれました。ここで学んだ事は、「逃げて身を潜めているだけでは、失うものがあっても得るものは、何一つないという事実でした。」「活動継続の中での感染症防止」を掲げ世界の拳法会は、邁進しています。

頑張れ世界の子どもたち！ 僕たち！ 私たちは！ 油断しない！

Be strong! Children of the world!

We are not defeated. Become a strong mind and body with Kenpo Kai.
Win the coronavirus.



Europe Kenpo Kai



Africa Kenpo Kai



Tunisia



South Asia



India



Nepal



日本 Japan



2021 IKKO 世界拳法会連盟



春の新会員募集中！ 拳法会で得たものは、日常生活に生かせる。
武道ほどステータスが高いものはない

声かけ運動をおねがします！ 育てサムライ！

昇段審査Online講座「山鹿素行の元禄期の武士道」 講師 船津明生

2021年6月6日の高段者昇段審査の論文テーマは、「山鹿素行の元禄期の武士道」です。
審査に先立ちZoomによるOnline講座を行いますのでみなさんご参加ください。



講師 船津明生 名古屋大学大学院卒
学術博士
博士論文: 明治期の武士道についての一考察
著書に「その声を変えなければ結果は出ない」などがある。



日本人の魂！武士道(武道)を学ぼう！

生涯スポーツ、生涯武道・中学部活動の問題を探究！
中学生の2割がスポーツ嫌いになり！半数近い46%が高校に進学すると運動をしない！

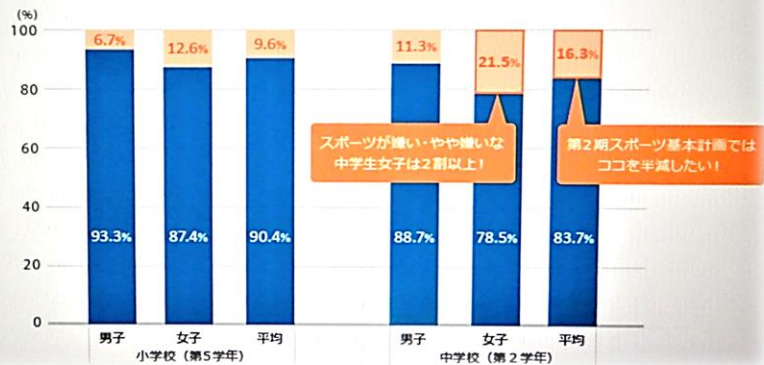


目標は「スポーツ嫌いの中学生を半減させる」こと



女子中学生の2割が「スポーツ嫌い」という現実

「好き」だけでなく「嫌い」にもフォーカスする



『運動部活動における継続性に関する研究』

*池上寿伸

運動、中学から高校への非継続46%

A Study on Continuity in Athletic club activity of School

Toshinobu Ikegami

結果及び考察

中学校の運動部活動を経て、高等学校の運動部活動へ継続しているものは1,500人と全体の54%である。この継続の有無を性別にみると、男子の運動部継続者(以下、継続群とする。)が61.9%と6割以上を占めており、逆に女子は非継続者(非継続群とする。)が56.9%と過半数を占め、男子に継続者が多いという有意な性差がみられる。(表2参照、 $p < 0.001$)

池上ら(2)の調査によると、小学校時代の少年スポーツ活動から中学校部活動への継続率は81.7%であり、これによると大幅な継続率の低下傾向にあるといつてよいと思われる。(図1、2参照)

次に、中学校種目分類別にみると、継続群のう

表2 性別にみた運動部活動継続の有無

	合計 (n)	継続の有無(%)	
		運動部継続	非継続
全 体	2,778	54.0	46.0
男	1,605	61.9	38.1
女	1,173	43.1	56.9

($p < 0.001$)

部活動人気ランキング 男子(2018)

順位	種別	人数	割合(%)
1位	サッカー	165,351	10.1
2位	野球	161,939	9.9
3位	テニス	107,394	6.6
4位	バスケット	91,454	5.6
5位	陸上	68,733	4.2
6位	バドミントン	63,581	3.9
7位	卓球	53,430	3.3
8位	バレーボール	46,223	2.8
9位	弓道	31,581	1.9
10位	ハンドボール	27,131	1.7

※割合(%)=各種人数÷高校生徒数×100
※サッカーの人数は高校部活動のみ(除くクラブユース)

部活動人気ランキング 女子(2018)

順位	種別	人数	割合(%)
1位	テニス	69,635	4.3
2位	バレーボール	58,531	3.7
3位	バスケット	57,733	3.6
4位	バドミントン	56,350	3.5
5位	陸上	39,650	2.5
6位	弓道	32,106	2.0
7位	卓球	22,680	1.4
8位	ソフトボール	20,631	1.3
9位	ハンドボール	16,018	1.0
10位	剣道	14,758	0.9

※割合(%)=各種人数÷高校生徒数×100

文部科学省スポーツ庁は、生涯スポーツの観点から中学生の20%が「スポーツ嫌い」中学を終えると半数が運動部活動を継続しない現実から学校改革と共に部活動の改革を令和5年にむけ具体的な方針を打ち出した。現状では、「ブラック部活動」などにより網の目潜り抜けようとする悪質な指導者もいて更なる改革推進が望まれている。

スポーツのエンタメ化(娯楽化)が学校教育体育にも深く影響を及ぼしている。

地域スポーツに加入していれば、部活に参加しなくてもよい。

学校の動き方改革を踏まえた部活動改革 概要

部活動の意義と課題
部活動は、教科学習とは異なる集団での活動を通して人間形成の機会や、多様な生涯が活躍できる場である。一方、これまで部活動は教員による教員主導の活動で、休日を含め、長時間勤務の原因となっている。指導経験のない教員が中心となるなど、生徒にとって負担が大きい。また、中教審等や総務省の調査等において「部活動を学校単位から地域単位の取組とする」旨が指摘されている。

持続可能な部活動と教員の負担軽減の両方を実現できる改革が必要

改革の方向性

◆部活動は必ずしも教員が担う必要のない業務であることを踏まえ、部活動改革の第一歩として、休日に教科指導を行わないことと同様に、休日に教員が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築
◆部活動の指導を希望する教員は、引き続き休日に指導を行うことができる仕組みを構築
◆生徒の活動機会を確保するため、休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備

具体的な方策

I. 休日の部活動の段階的な地域移行 (令和5年度以降、段階的に実施)

◆休日の指導や大会への参画を担う地域人材の確保
(育成、マッチングまでの民間人材の活用)の仕組みの構築、兼職業の仕組みの活用)
◆保護費による費用負担、地方自治体による負担軽減等(国による支援)
◆拠点校(地域)における連携の推進とその成果の全国展開

II. 合理的な効率化の推進

◆地域の実情を踏まえ、都市・過疎地域における他校との合同部活動の推進
◆地理的制約を越えて、生徒・指導者のオンライン化が可能となるICT活用の推進
◆主に地方大会の在り方の整理(実態の把握、参加する大会の精選、大会参加資格の弾力化等)

※以上の部活動は、適した指導者や指導体制、指導者の負担軽減や指導者の確保が前提となる。

※上記の部活動は、適した指導者や指導体制、指導者の負担軽減や指導者の確保が前提となる。

会員募集中！

武徳教育を子供たちに普及！ご紹介ください。